

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

(MS Word デ

ータ送信)

【氏名】 園中 曜子

【所属】(助成決定時)

京都大学 アジア・アフリカ地域研究研究科

【研究題目】

トルコにおける身装文化と公共性に関する人類学的研究

【研究の目的】(400字程度)

トルコ共和国の人々は公共空間において、ひげの形により政治的立場を推測する、女性のスカーフの着用の仕方により宗教的立場を推測するなど、身装を通してお互いのアイデンティティや主義主張を推測する行為を重視している。このような行為は、民族や宗教、性的指向などの多様な背景を持つ人々が、直接的な対立や暴力的な衝突を避けるために行っているのではと推測される。本研究は、「お互いの存在に配慮しつつ自身の立ち位置を示すように身装を選択する」という人々の行動を、他者への関心や配慮を契機とした公共性形成の契機ではないかと推測し、イスタンブールを中心に、日常的な場やデモや抗議の場において、身装を用いて行われるコミュニケーションの実態を明らかにしようとするものである。

本研究の特徴は、人々の身装をアイデンティティや主義主張のあらわれととらえるのみではなく、コミュニケーションの契機としてとらえることにある。そして、多様な背景を持つ人々の間のコミュニケーションについて論じることで、トルコにおける多元的な公共圏の実態を明らかにすることを目指すものである。

【研究の内容・方法】(800字程度)

調査方法 文献調査と現地調査を行う。

・基礎的な調査

- ① 新聞記事や雑誌記事、書籍を通じた文献調査により、トルコにおいて身装文化をめぐるトピックがどのように議論されてきたのかを明らかにすることで、トルコ共和国における身装文化についての歴史的な考察を行う。トルコ共和国設立以来、それぞれの身装が人々の民族的、宗教的、あるいは政治的立場の象徴として、どのような意味を担ってきたか、その歴史について考察する。
- ② 文献調査、現地調査により、イスタンブールにおける身装文化の実態を明らかにする。現地調

査においては、現在注目を集めている男性のひげ植毛、ひげ脱毛や、若者の間で昨今人気を集めている、自身のアイデンティティを強く主張しないファッションなどに注目し、関係者にインタビューを行うことにより、それらがどのような人々によって採用されているのかを明らかにするとともに、身装に対する現代的な意識の変化についても考察する。

・本調査

イスタンブルにおけるインタビュー調査を通じて、① 自身の身装を選択する際に何が重要なファクターとなっているのか、② 他者の身装を目にすることで、どのような事柄を推測し、後のコミュニケーションに活かしていくのかを明らかにすることにより、人々が身装を用いて行っているコミュニケーションの実態を解明する。その際、宗教色、民族色が濃い地域とそれ以外の地域を比較することで、地域ごとの特色について論じるとともに、世代や性別ごとの意識の違いに注目することで、より詳細なデータを収集することを試みる。

また、現地調査と文献調査を織り交ぜつつ、人々が③ 身装を用いた生活戦略の場で培ったある種の共通感覚を、公共空間におけるデモや抗議の場で行われる文化政治的なコミュニケーションにどのように活かしていくのかを調査することにより、身装を用いた生活戦略と、公共性の形成との関連について明らかにすることを目指す。

【結論・考察】（４００字程度）

本研究では、イスタンブルにおける身装文化の実態を明らかにするために、人々がどのような身装を選択しているのか、民族や宗教、性的指向、居住地域、世代ごとに大まかな見取り図を描くことを目指して調査を行い、詳細なデータを収集することができた。

身装を用いたコミュニケーションと公共性の関連については、人々の多くは量販店で購入した自身のアイデンティティを強く主張しないデザインのファッションを着用する一方で、露店市にもしばしば足を運び、自身のアイデンティティの一端を表現していると感じるアイテムを購入し、上着の下や目立たないところに身につけるといった行動や、外出の際には通行する地域によって上着の前のボタンを開閉するなどといった行動など、公共性形成の契機となりうるコミュニケーションであると捉えることのできる例を多数収集することができた。これらの詳細な分析を進めることで、トルコにおける多元的な公共圏の実態の一端を明らかにすることができると考えている。